

G-9 小学校6年被服製作学習(洋服カバー)についての児童の意識調査
広島大教育〇石渡すみ江・大東文化大犬山サカエ・岩手大教育清水 房

目的 小学校被服製作学習中、6年のカバー類の製作より、洋服カバーづくりについての実際の学習に対して、児童の意識調査を行い、教材の選択および学習指導に役だてようとするものである。

方法 調査対象は広島市内2校145人、東京都内2校103人、盛岡市内2校85人、調査時期は昭和47年10-11月で製作完了直後、調査内容は洋服カバーづくりの各作業に対する児童の難易の意識・興味・できばえの自己評価

結果 ①洋服カバーの製作全体について一作業に対する困難度は中程度で、男子の方がむずかしいと意識している。作業への興味度はふつうで、女子の方が興味が高い。できばえに対する自己評価は中程度で、女子の方がよくできたと多くが答えている。

②作業別について一ミシン縫は男女共にむずかしいが興味の高い作業である。できばえに対する自己評価は男子は中位、女子はもっともできばえよくない作業である。まつり縫いは女子にはやさしく興味もあり、できばえよい作業であるが、男子には難易度・興味はふつうで、できばえよくない作業である。③各作業に対する意識の相関関係について一難易の意識と興味との相関は、全員にむずかしいと思われ3作業に興味をもつ傾向がみられた。難易の意識と自己評価の相関は、全員にむずかしいと思われ3作業にできばえもよくなかったと評価している。自己評価と興味との相関では、検定の結果有意は認められなかった。以上の結果より洋服カバーづくりは児童の意識の面からは適当な教材と思われる。